



Photostud

# THE ASAHI HAI ST.LITE KINEN 第78回 朝日杯 セントライト記念 (GII)

1着 賞 54,000,000円 2着 賞 22,000,000円 3着 賞 14,000,000円 4着 賞 8,100,000円 5着 賞 5,400,000円  
 付加賞 980,000円 280,000円 140,000円

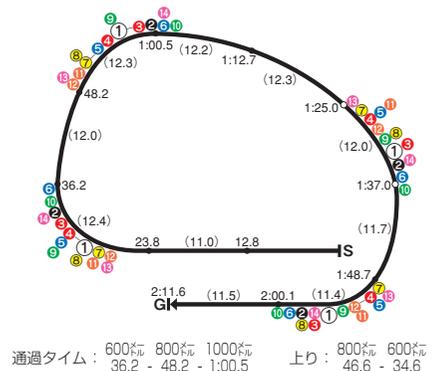


3歳、除未出走馬および未勝利馬  
 負担重量 馬齢重量

2024.9.16 中山 曇・良 芝2200m (国際 種差)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	アーバンシック	牡3	57	C.ルメール	2:11.6	9-6-5-7	34.0	510(-2)	3.1	武井 亮(美浦)	115
2	⑧	コスモキュランダ	牡3	57	M.デムーロ	1¾	9-10-7-3	34.2	504(+2)	2.9	加藤士達八(美浦)	112
3	⑥	エコロヴァルト	牡3	57	岩田康誠	2½	1-2-2-2	35.0	484(-2)	6.8	牧浦充徳(栗東)	108
4	⑩	ヤマニンアドホック	牡3	57	津村明秀	½	2-1-1-1	35.4	456(+2)	10.3	辻 哲英(美浦)	107
5	⑫	スティンガーグラス	牡3	57	武 豊	2	13-13-9-9	34.6	468(-2)	10.7	木村哲也(美浦)	
6	⑨	アスクカムオンモア	牡3	57	戸崎圭太	1	6-6-7-8	35.1	488(±0)	12.4	藤原英昭(栗東)	
7	⑭	タンゴバイラリン	牡3	57	菅原明良	1¼	3-2-3-5	35.6	506(±0)	75.9	栗田 徹(美浦)	
8	⑪	バンジャ	牡3	57	小林勝太	クビ	11-12-10-9	34.9	474(+6)	200.4	金成貴史(美浦)	
9	②	タガノデュード	牡3	57	丹内祐次	アタマ	3-4-3-3	35.8	472(-16)	84.5	宮 徹(栗東)	
10	⑦	ログラール	牡3	57	北村友一	¾	11-10-13-13	34.8	474(+4)	98.0	松永幹夫(栗東)	
11	③	エコロレイズ	牡3	57	横山和生	1¼	5-5-5-5	35.9	508(+8)	39.7	岩戸孝樹(美浦)	
12	④	ルカランフィースト	牡3	57	横山武史	1½	6-8-10-11	35.6	470(+2)	22.3	鹿戸雄一(美浦)	
13	⑬	アスクハッピーモア	牡3	57	田辺裕信	1¼	13-13-14-13	35.4	526(±0)	127.7	田村康仁(美浦)	
14	⑮	サルヴェージュワーク	牡3	57	佐々木大輔	¾	6-9-10-11	35.9	532(+18)	155.3	田村康仁(美浦)	

単勝①310円(2½%) 複勝①130円(2½%) ⑧120円(1½%) ⑩180円(3½%) 枠連①-⑥580円(1½%)  
 馬連①-⑧570円(1½%) ワイド①-⑧250円(1½%) ①-⑥400円(2½%) ⑥-⑧420円(3½%)  
 馬単①-⑧1,110円(2½%) 3連複①-⑥-⑧1,070円(1½%) 3連単①-⑧-⑥4,820円(2½%)  
 5重勝⑦⑩②①⑩10,140円(55,919票) 対象競走：中山9R/中京10R/中山10R/中京11R/中山11R



## アラカルト

- ・C.ルメール騎手はセントライト記念初勝利。JRA重賞は本年5勝目、通算152勝目
- ・武井亮調教師はセントライト記念初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算2勝目
- ・スワーヴリチャード産駒はJRA重賞通算5勝目
- ・アーバンシック、コスモキュランダ、エコロヴァルトは菊花賞(GI)に優先出走できる

# アーバンシック Urban Chic

牡 栗毛 2021.3.16生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・衛シルクレーシング 美浦・武井亮厩舎  
馬名意味・洗練された。母名より連想

ウインドインハーヘアIRE系 F2/F

スワーヴリチャード 栗毛 2014	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	ピラミマUSA 黒鹿毛 2005	Unbridled's Song Career Collection
エッジスタイル 栗毛 2013	ハービンジャーGB 鹿毛 2006	Dansili Penang Pearl
	ランズエッジ 鹿毛 2006	ダンスインザダーク ウインドインハーヘアIRE

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4 Lyphard S5×M5

## INTERVIEW

石井宇宙 厩舎長(ノーザンファーム早来)

### 強いレースを見せてくれました

乗り出してからしばらく経っても緩さが抜けきらなかったですが、調教では立ち上がるといったやんちゃな馬でした。それでも管理をする武井厩舎や、ノーザンファーム天栄のスタッフのおかげで心身ともに成長を遂げられたのだと思います。最後の直線も前にいた馬を捉えてくれるなど、強いレースを見せてくれました。この勢いでG Iも勝ってほしいです。

M. Takahashi



「アーバンシック」の成長を印象付けた重賞初制覇。3番人気に支持された朝日杯フュー...

チユリテイSの2着馬エココロヴァアルツが、ダービーに続いてこの日も先手を窺ったものの、折り合いを欠いたヤマニンアドホックがコーナー過ぎでこれをかわし、主導権を奪取。エココロヴァアルツは2番手に控え、落ち着いた流れてレースは進む。課題のスタートを決められなかったアーバンシックだが、C・ルメル騎手は冷静にリカバリ。内々を回って徐々に位置を上げ、向正面では好位勢の背後に取り付いた。

同様にスタートで立ち遅れたコスモキランダは中団を追走。しかし3コーナーから馬群の外々を回って進出にかり前の2頭に接近、迎えた直線では逃げ粘るヤマニンアドホックを坂下で競り落とす。対してルメル騎手は内々で脚を溜めて4コーナーを回り、直線に向いてからスパート。「持久力VS瞬発力」の重配は後者にあがり、鋭い決め手を芽え渡らせたアーバンシックが、先に抜け出したコスモキランダを鮮やかに差し切った。

ダービーでも4番人気(1着)の支持を集めた本馬はスワーヴリチャードの初年度産駒として、父が巻き起こした旋風の一翼を担ってきた。春の時点では心身ともに幼さを残していたが、この日はスタートのビハインドを大人びた走りで見返し、初の勲章を手にした未定となっていた次戦はその後、菊花賞に決定。追い込み一手のイメージを払拭して臨む最後の一冠が楽しみだ。

### 父スワーヴリチャード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首19戦6勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、大坂杯<sup>G1</sup>、金鯱賞<sup>GII</sup>、アルゼンチン共和国杯<sup>GII</sup>、共同通信杯<sup>GIII</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup> 2着、東京スポーツ杯2歳S<sup>GIII</sup> 2着、ジャパンC<sup>G1</sup> 3着、ドバイシーマクラシック・首<sup>G1</sup> 3着、宝塚記念<sup>G1</sup> 3着、安田記念<sup>G1</sup> 3着)、20年から供用〔代表産駒〕レガレイラ(ホープフルS<sup>G1</sup>)、コラソビート(京王杯2歳S<sup>GII</sup>、フィリーズレビュー<sup>GII</sup> 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup> 3着)、アーバンシック(本馬)、スウィープフィート(チューリップ賞<sup>GII</sup>)、アドマイヤベル(フローラS<sup>GIII</sup>)、パワーホール(札幌2歳S<sup>GIII</sup> 2着)、ナムラフッカー(デイリー杯2歳S<sup>GII</sup> 3着)、ヴェロキラブトル(野路菊S<sup>OP</sup>)

### 母エッジスタイル

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央26戦3勝(都井岬特別)、22年輸出(豪)カムリー(20 牡父ドゥラメンテ)中央3戦0勝、地方3戦0勝

アーバンシック 本馬(21 牡父スワーヴリチャード)中央6戦3勝(セントライト記念<sup>GII</sup>、百日草特別、京成杯<sup>GII</sup> 2着、皐月賞<sup>G1</sup> 4着)獲得総賞金119,228,000円

(22 流産)

(23 牡父Castelvecchio)

### 祖母ランズエッジ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

ロカ(12 牝父ハービンジャーGB)中央1勝(忘れな草賞<sup>OP</sup> 2着、クイーンC<sup>GIII</sup> 3着)、レガレイラ ⑩(ホープフルS<sup>G1</sup>)、ドゥラドーレス ⑩(江の島S、藻岩山特別、セントポーリア賞、毎日杯<sup>GIII</sup> 3着)の母

エッジスタイル(13 前出)

ブルークランズ(14 牝父ルーラーシップ)中央3勝(北大路特別)、ステレンボッシュ ⑩(桜花賞<sup>G1</sup>、赤松賞、オークス<sup>G1</sup> 2着、阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup> 2着)の母

ヴァルコス(17 牡父ヴェリストIRE)中央2勝(ゆきやなぎ賞、青葉賞<sup>GII</sup> 2着)ギャラクシーエッジ(18 牡父エビファネア)中央1勝(聖籠特別)

### 曾祖母ウインドインハーヘアIRE

愛、英、独3勝(アラルポカル・独<sup>G1</sup>、プリティポリーS・英I、フィリーズトライアルS・英I、英オークス<sup>G1</sup> 2着、ヨークシャーオークス・英<sup>G1</sup> 3着)、99年輸入、12年用途変更、ディーブインパクト(日本ダービー<sup>G1</sup>、ジャパンC<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>、宝塚記念<sup>G1</sup>、日本リーディングサイアー)の母

## 成長を印象付けた重賞初制覇

ラジオNKKK 賞3着のヤマニンアドホック、新潟の1勝クラス戦を好時計で圧勝したステインガークラスらの上がり馬も駒を進めてきた関東の菊花賞トライアル・セントライト記念だが、中心勢力と目されたのは春に皐月賞、ダービーを転戦した実績馬たち。なかでも弥生賞ディーブインパクト記念1着、皐月賞2着と、一枚上の戦歴を誇るコスモキランダが1番人気に支持された。その前に立ち遅れたのは2番人気のアーバンシック。皐月賞の4着馬が、びと夏越しての成長を印象付けるパフォーマンスを演じ、重賞初制覇を果たした。

チユリテイSの2着馬エココロヴァアルツが、ダービーに続いてこの日も先手を窺ったものの、折り合いを欠いたヤマニンアドホックがコーナー過ぎでこれをかわし、主導権を奪取。エココロヴァアルツは2番手に控え、落ち着いた流れてレースは進む。課題のスタートを決められなかったアーバンシックだが、C・ルメル騎手は冷静にリカバリ。内々を回って徐々に位置を上げ、向正面では好位勢の背後に取り付いた。

同様にスタートで立ち遅れたコスモキランダは中団を追走。しかし3コーナーから馬群の外々を回って進出にかり前の2頭に接近、迎えた直線では逃げ粘るヤマニンアドホックを坂下で競り落とす。対してルメル騎手は内々で脚を溜めて4コーナーを回り、直線に向いてからスパート。「持久力VS瞬発力」の重配は後者にあがり、鋭い決め手を芽え渡らせたアーバンシックが、先に抜け出したコスモキランダを鮮やかに差し切った。

ダービーでも4番人気(1着)の支持を集めた本馬はスワーヴリチャードの初年度産駒として、父が巻き起こした旋風の一翼を担ってきた。春の時点では心身ともに幼さを残していたが、この日はスタートのビハインドを大人びた走りで見返し、初の勲章を手にした未定となっていた次戦はその後、菊花賞に決定。追い込み一手のイメージを払拭して臨む最後の一冠が楽しみだ。